

第3回国連軍縮特別総会での  
広島市長の演説

1988年6月

広島市長 荒木 武

議長、並びにご列席の皆様

私は、世界平和連帯都市市長会議の会長である広島市長の荒木 武であります。本日は、世界平和連帯都市市長会議の副会長である8名の市長とともに出席しておりますので、ご紹介をいたします。

日 本 長崎市長  
ドイツ民主共和国 ベルリン市長  
イタリア コモ市長  
ドイツ連邦共和国 ハノーバー市長  
ザンビア ルサカ市長  
アメリカ サクラメント市長  
カナダ バンクーバー市長  
ソビエト ボルゴグラード市長

議長

1945年8月、人類は、限りなく大きな過ちを犯しました。それは、原子爆弾の投下という歴史的事実であります。しかし、私はそれを告発するために登壇したものではありません。

「安らかに眠って下さい 過ちは繰返しませぬから」これは、原爆死没者慰霊碑の碑文の言葉であります。この碑文は、犠牲者への慰霊と、過去・現在・未来にわたる全人類の誓願と戒律であり、ヒロシマの心そのものであります。ヒロシマは、悲しみに耐え、憎しみを乗り越え、多くの困難を克服して、人口105万人を擁する「国際平和文化都市」として見事に再生しましたが、二度とヒロシマを繰り返さないため、核兵器廃絶と世界恒久平和を訴え続けているのであります。

議長

ヒロシマに投下された原子爆弾は、高度に開発された核兵器の現状からみると玩具に等しいものといわれます。しかし、たった一発の原子爆弾が、一瞬にして14万人の人命を奪い、都市を破壊し尽くしたのであります。私は被爆者の一人として目のあたりそれを見、未だに忘れ得ません。現在なお、直接被爆者はいかに及ばず、二次放射能や胎内被爆等の被爆者30数万人が健康不安と生活苦の中で、懸命に生き続けているのであります。この事実思いをいたして欲しいのであります。さすれば、核兵器の保有と開発がいかに恐るべき蛮行であり、許し難い悪であるかということに気付くはずであります。

議長

私は、昨年12月の米ソ両首脳によるINF全廃条約調印及びこのたびの批准書の交換は、史上初めての核兵器の削減であり高く評価するものであります。この条約は、包括的軍縮プロセスの出発点となるべきであります。しかし、世界が期待した先の米ソ両

首脳による戦略核半減交渉は、実質的進展がみられず、強い焦燥（いらだち）の念を禁じ得ません。今後、米ソ両国をはじめすべての核保有国による核兵器削減交渉、そして全廃へ向けての協議が、遅滞なく継続的に進められることを強く望むものであります。

議長

SSOD-Ⅱにおいて、世界軍縮キャンペーンが提唱されましたが、私は、これに強く賛同し、国連軍縮フェローシップの受け入れをはじめ、ノーベル平和賞受賞者や核保有国の代表的ジャーナリストらを広島に招いて、平和サミットやシンポジウムを開催し、また国内、国外における原爆展の開催など多くの活動を実践してまいりました。

さらに核軍縮に向けての国際的世論の醸成を図るため、世界の都市が連帯する必要性を強く感じ、私は、「世界平和連帯都市市長会議」の組織化を呼びかけ、現在では、東西両陣営及び非同盟の国々、39か国219都市が賛同し、その都市人口は、1億人を超え、この総会に連帯都市の総意に基づくアピールを提出しています。私共は、都市行政の根幹は平和であるとの強い認識のもとに、連帯の輪を広げてまいる決意であります。

議長

私は、特に次の3点について強く訴えます。

第1 核実験は、核兵器の高度開発を意図し、かつ悪魔的デモンストレーションであります。よって、包括的核実験の即時全面禁止条約の速やかな締結を強く求めます。

第2 世界の指導者、さらには次代を担う青少年が広島を訪れ、直接被爆の実態を確認することを訴えます。広島の平和記念資料館にはすでに国の内外から3,000万人を超える人々が訪れています。諺に「百聞は一見にしかず」とあります。広島を訪れることによって、核抑止の悪夢から目覚め、核兵器廃絶の思いを強くするでありましょう。

第3 平和と軍縮に関する国際的な研究機関が、被爆の地広島に設けられることを心から期待します。

議長

ヒロシマは単なる歴史の証人ではありません。ヒロシマは人類の未来への限りない警鐘であります。

このことを強く訴え、SSOD-Ⅲが、今世紀最大の転機として歴史に残るものとなることを期待し、私の演説の結びといたします。

ありがとうございました。